

## 4 内地留学生研修について 【児童・生徒指導(教育相談)】

### ○小谷野 早苗 (小山市立大谷東小学校)

#### 1 研究テーマ

「子ども達の間関係づくりに生かすカウンセリングエッセンス」

#### 2 研究の概要

学校・学級に対する不適応や人間関係の問題で悩んでいる目の前の子ども達にとって、学校において日常的に身近にいるのは教師であり、それらの問題に教師が適切に取り組むことが必要とされる。教師が子ども達の立場に立ってカウンセリングマインド(カウンセリングの心構え・姿勢)を根底に、一人一人にきめ細かくかかわることで、子ども達をより深く理解し、より適切に接することが可能となり、学習指導・児童生徒指導の両面において高い教育効果が期待される。さらに、グループや学級集団等の集団を育てることを目的としたスクールカウンセリングを推進することで、個と集団が相補的に高まりを見せると考える。

カウンセリングの理論は、カウンセラーがクライアントに治療的な関わりを目的として行うことを前提としている。しかし、スクールカウンセリングは、原因を追及し病気を治療する治療モデルではなく、問題を抱えている子ども達と関わり、子ども達の問題を解決する力を引き出すことを援助する教育モデルによる活動である。それぞれの目的に違いはあるが、カウンセリングの効用と厳しさや難しさを理解した上で、現在の学校教育に必要な部分を学校教育に適応した形にアレンジして取り入れることは可能であると考え、カウンセリングの理論や技法について研究したいと考えた。

問題を抱えた子どもを援助するための個別対応を迅速に行うためには、事実や問題の理解を深めることが必要であり、個人面接での聴取、行動観察、保護者など周囲を取り巻く人達からの情報収集、心理テストなどから、事実や状況を振り返り、本人の気持ちを受け止めながら、問題を一緒に確認し整理していく。このような共同作業をすることで、本人自身の自己理解が深まり、次第に問題解決に向かう気持ちが高まってくる。

また、目標を明確にすることも大切である。本人の肯定的な側面、うまくできていること、解決したい気持ちに焦点をあて、将来の求める姿や解決できた状態・ゴールを明確にしていく。達成可能な小目標を一緒に考え、自信ややる気を引き出しながら、解決に向けて具体的な行動を明確化していく。

さらに、行動の支援、環境を修正するために、勇気づけ、励まし、スキル学習が必要となる。うまくいっている行動はほめて継続していく。また、うまくいかなかった行動は止め、新しい行動に切り替えて実施していく。成功体験やうまくできている事実をほめることは、自己肯定感を高め、ストレス耐性を向上させ、問題を克服する気持ちを育てることになる。

以上の通り、カウンセリングの理論や技法を学校教育に適応した形にアレンジし、子ども達の人間関係づくりに生かせるよう研究を行った。

### 3 研究

#### (1) 学内講義

①専門演習 A・C (兪) ②臨床心理学 (高浜)

#### (2) 主な研修先

① 那須学園 ②アリスとテレス ③小山市青少年相談室 他

## ○根本 国敏(栃木市立岩舟小学校)

### 1 研究テーマ

「不登校の理解と支援方法について～教育実践者として何ができるか～」

### 2 研究の概要

今日、不登校の問題は学校現場にとって大きな問題である。自分自身が学級担任として不登校を出した反省から本研究テーマを設定した。実際に学校現場で使えるような支援方法の構築を目指して研究を進めていった。

まず、文部科学省で毎年実施されている「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」のデータをもとに、小中学生の不登校児童生徒数の推移を分析した。毎年、児童生徒数は減少しているものの、不登校児童生徒数は増加の一途を辿っている。最新のデータでは、全国の不登校児童生徒は14万人を超えている。この数字は、小中学校の各学年に1～2人の児童生徒が不登校になっていることを表している。

この事実をもとに、不登校の具体的事例を集め、不登校が起こった原因や背景を分析した。その結果、不登校の態様は様々であり、不登校発生の原因や背景、解決に至るまでの経緯も一括りではまとめられない状況が分かってきた。そこで、各事例を便宜上「身体的理由(病気・障害)」「経済的理由」「家庭的理由(崩壊・放任・無理解)」「心理的理由」と分類し、学校現場で応用しやすいようにした。

また、事例分析をしていくと不登校に陥りやすい児童生徒の特徴が見えてきた。それを、「本人に見られる特徴」「環境に見られる特徴」の2つに分けて提示し、学校現場での支援に参考になるようにした。さらに、不登校児童生徒の家庭での過ごし方について研究を進めた。不登校児童生徒は、家で過ごしていく中で「育ち直し」とも言えるような劇的な心理的成長過程を経験することが分かった。それを心理的变化の特徴に基づいて「Ⅰ期(身体的愁訴段階)～Ⅷ期(完全回復の段階)」にまとめて提示し、不登校児童生徒が辿る心の旅を追った。

以上、不登校児童生徒について分かったことをもとに、学校現場での支援方法を考察した。各事例を分析していくと、不登校が始まってからの支援は現在、学校外にも多くの支援システムが構

築され、学校の要請を受け、児童生徒のニーズに合わせた様々な方法があることがわかった。また、学校内で最も求められていることは、新たな不登校を生み出さない雰囲気づくりである。そのための学級経営について言及した。

### 3 研究

#### (3) 学内講義

① 専門演習 A・C(兪) ②神経・生理心理学(村田) ③臨床心理学(高浜)

#### (4) 主な研修先

① 小山市青少年相談室 ② 栃木県那須学園 ③ 宇都宮少年鑑別所 他

## ○塚田 邦彦(真岡市立真岡中学校)

### 1 研究テーマ

「中 1 ギャップの理解と不登校改善に向けて～不登校の未然防止と新たな不登校を生まないために～」

### 2 研究の概要

文部科学省による「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」によると、毎年、不登校の児童生徒数は増えており、特に小学 6 年生から中学 1 年生での増加が著しい。「不登校が中学 1 年生で増えるのはなぜなのか？」この疑問が研究の原点である。そこには「中 1 ギャップ」が関係しているのか？では、中 1 ギャップの原因は？解消に向けてどんな対策が取り組まれてきたのか？特に、「不登校」に注目し、学校現場ではどんな取組が求められているのか研究を進めていった。

「中 1 ギャップ」の解消に向け、小中の連携、6・3 制の見直し、小学校での教科担任制、など多くの実践研究や先進校での取組が行われてきた。現在では、中学校区での連携がさらに強く進められている。しかし、文部科学省国立教育政策研究所は「中 1 ギャップ」という語に明確な定義はなく、安易に「中 1 ギャップ」という言葉を用いることで思考を停止し、根拠を確認しないままの議論を進めたり広めたりしてはならない、と警鐘を鳴らしている。

小学校と中学校の接続を強めていくことを否定しているものではないが、そのこと以上に、前述の「調査結果」から「前年度からの不登校事案が解決するよりも早く、新規に不登校になる児童生徒が増え続けている」という事実が見え、現在の学校現場では、「魅力ある学校づくり」を通して「新たに不登校を生まない」取組が強く求められている。

「魅力ある学校づくり」に向けての土台として①授業づくり②学級づくり③人間関係づくり④教員としての力づくりの 4 点にまとめた。不登校対策には、教員個々の努力だけでなく、「同僚制」を發揮し、組織的な一枚岩の取組が重要であり、学校全体の取組の中で①授業がわかりやすく充実感を伴うものであること。②その基盤となる「学級」が安心・安全な居場所であること。そして、③「人間関係づくり」を通した、生徒一人一人への丁寧な対応が求められていること。そして、教員は時代の

変化と共に、今までの指導観を変え、カウンセリング技術など学び続けなければならない。ただ、教員一人の力だけでは解決できない問題も多い。だからこそ、「社会的自立」という不登校解決の最終目標に向け、専門的スタッフや地域との連携を推進した「チームとしての学校」づくりも、さらに求められている。

### 3 研究

(1) 学内講義: ①社会心理学(兪) ②生徒指導論(木村)

③発達障害児の心理と教育(高浜) ④教育相談(西谷)

(2) 主な研修先 ①中央児童相談所 ②宇都宮市立旭中学校相談学級 ③さくら市立氏家小学校 その他: 本学で行われた第 23 回道徳教育合同研修会、教職実践センターシンポジウム、こころの相談クリニックのケース見学に参加

## 【外国語修得・日本語教育】

### ○大山 明 (佐野市立葛生南小学校)

#### 1 研究テーマ

「中国語の習得と外国人児童生徒教育について」

#### 2 研究概要

今回の内地留学では、中国語を学ぶと共に、外国人児童生徒教育の現状について学び、今後の指導の手がかりとしたい。

#### 【研究の目的】

- (1) 中国語を体系的に学習し、母語以外の言語習得を体験することによって、多角的で広い視野を持てるようにする。なお、報告書で「中国語」と表記するのは、中国国内において全国共通の標準語である「普通話」を指す。
- (2) 外国人児童生徒教育の理解を深め、外国人児童生徒に対する支援・指導について、方向性が持てるようにする。

#### 【研究の方法】

- (1) 作新学院大学人間文化学部で開設されている「初級中国語 1-1」「初級中国語 2-1」「中級中国語 1」「漢文学概論A」「漢字・漢語と社会」を受講し、随時指導を受けながら中国語を習得していく。
- (2) 作新学院大学人間文化学部で開設されている「日本語教授法A」「日本語教授法演習」を受講し、日本語指導の実践や日本語教育に関する知識習得を通して外国人児童生徒教育の現状を把握する。
- (3) 作新学院大学人間文化学部で開設されている「異文化間コミュニケーション」を受講し、異文化

間教育への理解を深め、よりよいコミュニケーションのとり方について考える。

(4) 栃木県内の外国人児童生徒適応指導教室、初期日本語指導教室、日本語教室の見学を通して、外国人児童生徒教育の現状を把握する。

#### 【研究の成果】

- ・中国語を学ぶのは初めてであったが、中国語の基礎を学び、簡単な単語や文の読み書きができるようになった。初めて学ぶことへの不安や難しさを感じたが、外国人児童生徒が日本語を学ぶ際の気持ちへの理解につながる経験ができた。
- ・「日本語教授法 A」「日本語教授法演習」の授業を通して、日本語教育について様々な教授法を学ぶことができた。また、模擬授業を行うことで実践的な内容を学ぶこともできた。外国人教育だけでなく外国人に関わる就労の問題などを調べる機会もあり、視野を広げることができた。
- ・「異文化間コミュニケーション」の授業から、これまで意識していなかった「コミュニケーション」に対する意識が高まった。「違いがある」ということを念頭に置くことは、異文化に限らず、コミュニケーションをとるうえでとても重要なことであり、コミュニケーションは、押しつけや一方的なものではなく、相互理解が大切であるということを理解できた。
- ・学外研修において、栃木県内の外国人児童生徒教育の実践現場を参観し、初期指導や日本語教室の重要性、具体的な指導法についての理解が深まった。また、どの先生からも子どもたちに対する愛情や教育への熱い思いを感じ、自分自身の仕事に対する姿勢を振り返るよい機会となった。

#### 【特別支援教育】

##### ○佐藤 大輔(宇都宮市立陽南小学校)

###### 1 研究テーマ

「発達障害の理解と指導の工夫」

###### 2 研究概要

平成 28 年(2016 年)4 月施行の障害者差別解消法により、合理的配慮を可能な限り提供することが、学校でも求められることとなった。それまでも特別支援教育は進められていたが、通常学級および特別支援学級でもよりいっそう合理的配慮が求められている。こうした状況の中、学校の教育活動全ての場面において役に立つ、そのような支援の手立てを研究した。

講義では、第 1 に、発達障害の典型的な症状例を学んだ。主に、注意欠如・多動症(ADHD)と自閉症スペクトラム障害(ASD)についてである。両症状の部分的な点については学校現場でも分かっていたが、両症状の違いや詳細、また併存している事例等、発達障害について体系的に学ぶことができた。対象児童のアセスメントをするのに不可欠であり、学び直すことは価値があった。

第 2 に、応用行動分析学を学んだ。行動という表層レベルの現象と心理という深層レベルでの

営み、これらの結びつきについて事例を通して学んだ。有益だったのは、応用行動分析学が、問題行動の原因分析の仕方、問題行動の減らし方、望ましい行動の増やし方など、様々な指導場面において活用できる点である。

第3に、ユニバーサルデザインと特別支援教育の視点における合理的配慮の手立てを学んだことである。主として、教室での物的環境面での合理的配慮と指導方法等の人的環境面での合理的配慮の2点である。特に、学部生の模擬授業では、コメントする立場を務めたことで、発達障害児にとっての場所や時間の構造化、個別の支援のこまごまとした手立ての有用性を大いに実感できた。

学外研修では、ソーシャルスキルトレーニング(SST)を小学校の学齢期で学ぶ重要性や、事例相談における円滑な協力体制の築き方、および対象児童の見立てと問題行動における支援計画の相談など、チームで問題を解決する方法について学んだ。

研究では、過去の研究授業を特別支援教育およびUD(ユニバーサルデザイン)の2つの視点から、いくつかの授業を分析して、有効な支援の手立てについて考察を加えた。児童の生活スキル面や学力面の向上の手立てと仲間づくりを促進する手立てのあり方について研究することができた。

以上、内地留学中に学んだ発達障害の知識と支援の工夫を、学級担任、支援員、学年主任、特別支援教育コーディネーター、保護者等多くの人に伝えるとともに、児童に還元できるように活用していきたい。

### 3 研修内容

#### (1) 学内講義

- ①発達障害児の心理と教育(高浜) ②知的障害児教育法2(野村)

#### (2) 主な研修先

- ①茅ヶ崎市立浜之郷小学校                      ②那須烏山市立烏山中学校  
 ③那須烏山市立境小学校                      ④さくら市立氏家小学校  
 ⑤ハローワーク矢板                              ⑥ハローワーク宇都宮